

市民扇動 制裁を奨励するのか

写真のイラストは、毎日新聞 1 月 17 日「松尾貴史のちょっと違和感」から。コロナ禍の政治と社会について、松尾さんらしいタッチで迫っている。抜粋して紹介する。

最初の頃は、ライブハウスやらスポーツクラブやらパチンコ店が責められていた。その都度、悪者を作って「たたかせる」のが好きな権力者たちは今、新型コロナウイルス禍で飲食店を標的にしている。そこに納品する精肉業、鮮魚店、八百屋、おしぼり業者、製氷店、米穀店、生花店等にまで深刻な影響が出ている。



「店名公表も辞さない」と言う。これはつまり「店名をさらすから、みんなで嫌がらせしてあげてください」と、市民を扇動するということなのか。罰則ではないが制裁は奨励するという暗い社会を作りたいのだろう。営業を続けたパチンコ店を公表して、逆に集客に寄与したどこかの府知事もいたが。

「6 割が感染経路不明」と言っておいて、「その多くが飲食」とやり玉にあげるが、想像でしかない。「仮定の質問には答えない」が口癖のご仁とは思えぬ仮定の上に立った対策ではないか。しかし、後手後手は「仮定の質問に答えられない」無能ぶりのせいでもあるだろう。仮定して政策なり対策なりを講じるのも重要な仕事のはずだが、彼はそこから逃げ続けて、「確定」してか右往左往するので無為無策の後手後手になるのは自明の理だ。

勝負の 3 週間と言いながら「Go To トラベル」やら「Go To イート」を強行して市民の移動と飲食を促進しまくり、自分たちも大人数で会食していた首相が急に飲食を標的にするとんちんかん。

大阪では、数日前には「感染は抑制できている」とのんきに自画自賛していた府知事が突然「緊急事態宣言要請」と力み始めたことも滑稽だ。

首相の記者会見で複数のテレビ局の記者が「再度の特別定額給付金は」「持続化給付金は」などと聞いたら、ただ話をそらすだけで、「東京五輪の開催に世論の多くが懐疑的になっている」と記者から指摘されると、「安全安心な大会を実現したいという決意を持っている」と個人の心情を述べるのみ。開催できるかを心配しているのに、個人の決意など屁の突っ張りにもならない。「世界で（ワクチンの）接種が始まっている」「対応していくことによって、国民の雰囲気も変わってくるのではないか」と言う。まるでウイルスが国民の雰囲気を読んで収束してくれるような感覚だ。

そして「1 カ月後におさまらなかったら宣言の延長は」という質問に、半笑いで「仮定の話には答えない」と、また得意技を繰り出す。「緊急事態」というのに目はうつろで原稿は棒読み、質問ははぐらかすばかり。

(2021 年 1 月 20 日)